

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2018年10月号(第46号)



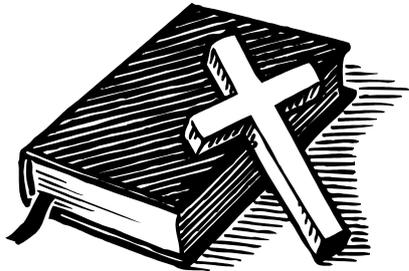
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

「この水を飲む人はみな、また渴きます。しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへと水が湧き出ます。」【ヨハネの福音書 4 章 13～14 節】

今夏は、記録的な猛暑が続きました。そこで欠かせないのは水分です。人は、のどが渇くと水を求めます。今は便利な時代で蛇口をひねれば水が出てきますが、日本でも少し前までは井戸からくんでいました。

今から 2000 年前も、もちろん同様でした。ひとりのサマリア人女性が真昼間に人目を避けるように水をくみに来ました。その時、この女性は一人のユダヤ人男性から声をかけられます。ここから不思議なやり取りが始まりますから、少し追ってみます。当時、ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのですが、この男性は声をかけ、「わたしに水を飲ませてください」と依頼しました。すると、この女性は「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」と質

問しました。すると、男性は「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのか知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたことでしょうか。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょうか」と言います。また、男性はその後で今月の聖書のことばにある発言をしました。この言葉を言われた女性は、自分が渇くことがないように、その水を私に下さい、と願います。すると、この男性は突然、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言います。それに対して、「私には夫がいません」と女性は答えます。その答えに「自分には夫がいない、と言ったのはそのとおりです。あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あな

たは本当のことを言いました。」と男性が言います。その答えに女性は驚き、「あなたは預言者だとお見受けします」と答えました。もう皆さんもお分かりかと思いますが、この男性とはイエス・キリストのことです。イエス様は、女性の状況を見事に言い当てました。イエス様は、水を飲ませてください、という依頼から、女性の真の問題へと言及しました。女性は、飲み水を求めて井戸に来たわけですが、イエス様は、本当に必要な心の渇きを満たすように導かれました。この女性は、心が何にも満たされず、異性によって心を満足させようとしていました。しかし、どんな男性も自分を満足させることはなく、結局五人の男性と結婚するも上手くいかず、今一緒にいる男性と付き合いを始めていました。イエス様は女性の渇いた心に、異性ではなく、イエス様が与える「生ける水」によって心の渇きを満たすように導かれました。

私たちも心が本当の満足を得られないと、様々なものに取り組むことがあります。そ

～集会案内～

- 日曜日：聖日礼拝 11:00～12:30 ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
教会学校 10:00～10:40（子どもから大人まで） 19:30～21:00
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（子育てなどを行っている方のための集い。）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

れは、仕事かもしれませんし、趣味や恋人かもしれません。あなたは、何によって心の渇きを癒しているのでしょうか？そんなこと考えたこともないという方もおられるでしょう。この世が与えるものは、一時の渇きを満たしてはくれますが、本当の満足を与えてはくれません。しかしイエス様は、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことがないと言います。そして、やがて永遠のいのちへと繋がっていくと言われます。ぜひ、イエス様が与えてくださる「生ける水」を求めて教会に足を運んで下さい。求める人には、必ずその「生ける水」が与えられ、本当の心の渇きを満たすことができます。

◆コラム

今年は自然災害に多く見舞われています。先日は、その一つである岡山県倉敷市真備町を訪れて、二日間ボランティアに加えて頂きました。普段は静かな川で、まるで氾濫しそうな川には見えませんでした。近年、「想定外」という言葉が多く聞かれるようになりました。

「想定外」を想定することは、なかなか難しいことですし、少々やり過ぎな気もしてしまいます。しかし、実際に起きていることは、そのようなことばかりです。これまでの経験や常識が通用しなくなっています。私たちはそのような変化の時代を生きていることを自覚する必要があるのかもしれません。